

連載・問わず語り／⑦

時代小説

と男性

司馬遼太郎
え・中西勝

私自身、女性に濃厚な興味をもっているのだが、面白さにかけては、同性の男という生きもののほうが、はるかに面白い。誤解して頂いてはこまる。べつに変な趣味はないのだから。

時代小説というのは、一にも二にも男の魅力、悲しさ、おかしみをえがく小説だが、私自身、そういう理由をこえて、男を見物するのがかぎりなく楽しい。

もつとも、男のなかでも、ちかごろ団地アパートにすんでいる男たちのように、

「女房を幸福にすることだけが自分の一生であります」

というようなのは、私にとってまったく魅力はない。

男という生きものが、その特質のもつともおもしろい部分を發揮するときは、かれが野望に燃えたときだ。権力慾、栄達慾、求道慾（くどう）、復讐慾、攻撃慾に燃えたときである。その行動がきわめてダイナミックになり、美しさも醜さもいきいきと出てくる。こ

ういう男をえがく為にはやはりこんにちの舞台ではまずい。一時代前の「歴史」を舞台にしなければ大きく動いてくれないのである。

しかも、変動期でなければならぬ。戦国時代とか、幕末とか、そういう舞台がいい。そういう時代にこそ、男のアクをふんだんにもった男が時代の主流に出てくるわけで泰平の世ではためである。

幕末の長州藩をほとんど一人でかきまわした高杉晋作は、明治維新の寸前、結核が高（こう）じて死んだが、こういう男が安定期にうまれておれば、親族でもてあましの極道者としての一生しか送れなかったろう。

高杉が京都にいたころ、將軍家茂が上洛して二条城に入ろうとした。幕威がようやく衰えたとはいえ天下の征夷大將軍の行列である行列は威厳と膺美（ぜいび）をきわめたものであり、往來の両側では市民が土下座をして頭をあげない。

そのとき、たまたま通りかかった高杉晋作が、土下座のうしろにふところ手をして立ちはだかり、芝居の大向うから役者の名でもよぶように、

「いよう、征夷大將軍」

と声をかけた。將軍供奉（くぶ）の旗本連中も見物の市民もまっさをになったが、さがした時はもう高杉の姿はその辺になかった。秩序や権威に対するまっところからの侮辱をやつてのけたわけだが、



こういう男でなければ時代小説に登場するほどの資格はないのである。

幕末の風雲もいよいよ急になってきたころ、京都の市中に、「土佐の豪傑坂本竜馬（りようま）が三千の兵をひきいて京都にやってくる」

といううわさがひろまった。むろんデマで、竜馬はたった一人で京都に入ってきた。

新選組、見廻組の猛者が、ツカをたたいて竜馬をたずねまわったが、べつに逃げもかくれもせず河原町の旅宿で恋人と一緒にとまっていた。

恋人というのは伏見の寺田屋の養女でお竜さんという娘だった。評判の美人で、才気があったが、針仕事や洗たくは大きらいだったという。竜馬は、新選組などは眼中におかずこの女性と手をつないで河原町筋を歩いたというから、度胸のよさもここまで来れば無茶といっている。

そのころ、薩摩藩に中村半次郎（のちの桐野利秋）という男がいて竜馬に、

「すこし遠慮をしたほうがよくはないか」

といったほどだった。

ついでながらこの半次郎という男は自源（じげん）流の達人で、新選組の連中も、

「薩の中村とはすれちがうな」

といったほどであった。自源流はもともと抜刀術（居合）が技術の骨になっており、すれちがいざまに斬る。斬れば、惨鼻眼をおおするような斬口になるのが、この流儀の特徴であった。

しかしいくら抜刀術でも歩きながらは斬れない。ちよっととまり腰をきめてから斬る。ところが、中村半次郎という男はどういう工夫があったのか、歩きながら斬った。このために新選組でさえ用心したのである。

半次郎は、文字が読めなかった。他藩に使いに行っても、相手の藩のことを、

「弊（へい）藩は」

などとまちがっている。自分の藩は、

「貴藩」

である。

同行の人はいつも汗をかいたという。帰路、それを訂正すると、べつに怒りもせず、

「左様か左様か。これは大そうな学問をした。自分の藩のことは弊藩でござすな。なるほどそういえば屁はシモから出ます。屁藩とおぼえておけばよろしうござすな」

と大笑いした。こういうくだわらなくて愛嬌のある男だから西郷も可愛がり、同藩の士もみなかれを愛した。親分かたぎな男で、人に信頼される男だったから、育ちは低かったが自然と藩中で重きになすようになった。

「おいに学問があれば天下をとつとる」

と自負していたという。

中村は明治になってから日本最初の陸軍少将（中将はなかった。大將は西郷隆盛一人である）になったが、西郷の政界隠退とともに東京を去って薩摩に帰り、西南戦争で戦死した。大そうなおしやれで、陣営にある時もフランスの香水をぶんぶんさせていたという。変動期に登場する英雄というのは、平時には暮らせないような男で、みなケタがはずれている。はずれた部分から男そのものがむき出しになっている。時代小説というのは、そういうむき出しの部分を書く小説なのだ。

むろん、かれらは狂人ではない。どの男にもかれらのその部分もっているのだが、かれらがたまたま男性というものを代表して変動の時代にその部分をむきだしにしてみせてくれるだけのことである。

いまでも、かれらはいる。いることはいるが、その部分をねむらせててくらしているのだ。本質は豹であつても自分を猫だと思い、人にもそう思われて暮しているだけのことである。泰平の時代では、男は、女房子供を安楽に食わせることだけが機能だし、女たちが男に要求するモラルも、そこに集中している。団地で女房にこきつかわれながらセンタクをしている亭主どもをみよ。かれらは乱世になればあるいは豹になるかもしれない男なのだが、世はこぞって男どもに猫になることを命じている。やむなく、日曜日には、女房子供をつれて、ピクニックなどに出かけている。男というものは、なんとかわゆくてあわれではかない生きものではないか、女性諸君。

（作家）

世界中の人からほめられた
日本の誇り 神戸のほまれ

マロングラッセは ヒロタの銘菓

新菓のマロングラッセをどうぞ

元町通三丁目 TEL ③二三四〇番



金 柴田音吉洋服店

神戸・元町通四丁目 ④0693

大阪・高麗橋二丁目 ②32106

ハイセンスで
えらぶ
秋のおくりもの



元町2丁目

■電話番号が変りました

TEL ③ 4707・4708

紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾 / 大丸 前③-3900
婦人服飾 / 大丸 前③-1695
婦人服飾 / 三宮センター街③-6114



私の好きなスター

森 雅 之

クラーク・ゲイブル

花 柳 芳恵似子

眼がおちくぼみ、頬がこけ、細い身体の持主。シャガレ声で、口の中でしゃべるような独特な唇の動き、どこからみても若々しい魅力というものを感ぜさせられないのに、彼がしゃべり動き、静止すると、惹き入れられるような青白い光を放つ。そして何か得態の知れない魅力の虜にさせられてしまう——それが森雅之です。

何年か前知人から貰った切符で「挽歌」という映画を観に行った（ロハであるというだけで……）ところがそれがキツカケで私は三度お金を出して、「挽歌」を観るハメになったのだから、いい気なものです。理由はカンタン「森雅之」を観るためにだけ……。

あの骨と皮だけの細い体で一体何を考えているのか分らないようなしかも激しい何かを秘めた遠い

まなざし……に私はすっかりスクリーンに引きずり込まれてしまいました。もちろん彼がイヤゴ役で出演した「オセロー」は真っ先きにつけました。

「風と共に去りぬ」のレッド・バトラー。一応女性ならこの小説の主人公である彼に、お熱をあげない者はいないのではないかしら？それが全く実在の人であるが、如く私の目の前に現われたのが、いまは亡きゲイブルだったのです。

がっしりした肩、真っ黒い髪と口ヒゲ。少しいたづらっぽい感じの黒い瞳。真っ白い歯。力強いサビの効いたバリトン。自信に満ちたその足どり——すべてがたくましく、プンブンと体臭の匂ってきそうな（それでいて清潔な）あの男性的魅力にあふれた彼、この二人は、実に対象的ですが

私は何故か共通した「ある男性」を感じるので。

一人は深く沈んだ湖の底から青白く光ってくるような智的な冷い感動。いま一人は活動する火山のように激しい熱い赤い閃光。

それは全く別々のもののようなのに、ある瞬間、お互いに逆なものを感じるので。冷めたく静かな方に、赤い熱い焔を——。激しい情熱的な方に、深い智性と冷静な理性を——。どこからひっくり返してみても二人とも、隅々まで男性的だということが共通している——という意外な発見だったので。

この二人の他に好きなスターはメル・フアラ、女性では越路吹雪、寿美花代、江利チエミと数えあげるときがないのです。

（邦舞家）

神戸だからえがく夢 No.11

底抜けにユカイなみんなの〈みなご祭〉

文・藤 本 義 一
え・佐々木 侃 司



※編集長 スンマセンみなとまつりの取材はアンマリおもしろうてついワレワレもいっしょになって……はあ……どうも。取材をわすれてまつりを楽しんだのでなんとものはあ……ビールがうまくてつい……

カッカーッ!!

編集長はアタマにきた。みなとまつりの取材は失敗!!

※とんだ新聞記者どもだ※

ミナトマツリもこなうるとモオシロインだが

また「みなと祭」がやってくるなさないお祭りさ。ちょうど一年まえ、これについてこの欄へ小気味よく書いて溜飲をさげたと思ったら、わさびのきいたところではバツサリと編集部の方で削ってしまいがった。今年はおとなしくやらかすから、どうか全文のせていただきたい。

私は阿波おどりが好きだ。大阪や神戸からでも観光客は見にくんじやなくて、踊りにいく——

（踊るあほうに見るあほう
同じあはなら踊らにゃせん
そん

この合理性こそ、お祭りの本質をついてるではないか。日本でも農村へいけば、盆踊りはみんなが踊るもの。ふちでポカンと見てるようなヌケたのはいない。パリ祭でも映画で見たらみんな踊っている。社交ダンスなんかでもそう。あんなもの、見てるほどバカなことはない。やってこそはじめとおもしろいのだ。

まつりなんてものは、もともとみんなのものなんだ。神戸市が見せてやろう、まあ見ておくれじゃない。市民が、さあ見物にいくじゃない。おまつりなんだ。私たちがみんなのものなんだ。みんなが腕を組むもの、みんなが歌うもの、みんなが手をうち、合の手を入れゆび笛を吹くものなんだ。

ではどうしたらいいのか。例によって夢をえがかせていたくとしよう。懐古行列よし、国際大行進よし、海上ちようちん巡行またよし、これらはこれまで勝手知った人たちにまかせておいて、活気にあふれた人たちは、ちがった新しいアイデアの催しを生み出すの

だ。

たとえば去年までやってきた広告自動車行例に眼を向ける。スポンサーが宣伝カーやトラックスをめいめいに飾りつけて百舌くらい、列をつくって走ったのだが、これも愛想のないものだ。今年はとりやめになった。これをもうひとひねりする。

スポンサーには大型トラックを用意してもらおう。周囲には商品名をデッかく書けばよい。しかし荷台はガランとさせておく。ここへつぎのようなグループを一つずつのせるのだ。または街の広場にマイクとスピーカーをつけてもらおう（宣伝カーをそばに置いたら拡声装置はそれでOKだ）または簡単な飾りつけをしてもらおう、などなど。

美術団体Ⅱ 二紀会神戸支部。音楽団体Ⅱ 中央合唱団。演劇Ⅱ 道化座。バレⅡ 島村好子研究所。服飾Ⅱ 神戸ドレメ。詩「蜘蛛」のグループ。商業美術Ⅱ 神宣美。そのほか人形劇団あり、童話グループあり、奇術の集団ありという具合に、神戸の街に興味のアマチュアグループはゴマンとある。もちろん音楽だけでいっても職場人合唱団だけで二十ほどもあれば、マンドリン同好会もあり、歌謡曲研究所ありというわけだから、芸術グループ全体でな二百や三百は軽く突破する。（何なら私が名簿をお見せしようか）ここに参加を求めて、あるものはトラックに乗ってもらおう。あるものは街角に陣どつてもらう。あるものは歩いて街を流してもらおう。すべて先様（出演者）のご希望にしたがうのである。海岸通をアマチュア・ジャズバ

ンドがトラックでゆっくり移動していく。元町マスの前ではドレメの生徒がフアッシュョンショウをやっていた。三宮神社の境内では道化座がショート・コメデーを開演中だ。市役所の前ではバレエの花が咲いている。生田神社では合唱団が外国民謡や日本民謡を力いっぱい歌っている。元町カネボウのあたりでは詩人たちが詩の朗読をやっていた。絵かきは作品のオークション（せり市）をやったり野外展をひらいたり——すべては青空の下で、集った人も拍手をしたりヤジをとばしたりの連帯意識。これらをあちこち楽しんでまわるのだが、ちようど子供たちが地藏盆でそら豆やお菓子をもらいに歩きまわると似ている。おとなも子供にかえるようなウキウキした一日、あるいは二日。これが私たちのまつりのアイデアのなかのひとつ。紙数がきたから今号はこれまででオシマイとなった。

つけ加えておくと、これを開く地区は、東は市電税関線、北は元町本通り、西は三越まで、南は旧居留地一帯を含めて中突堤までの海岸通の線に囲まれたなかつたことにはすばらしい。しいて入れるなら、これに加えて湊川神社、多聞通、新開地、湊川公園までのばしてもよい。

スポンサーとアマチュア（なかには道化座の様なプロもあるが）団体との提携というの、うまくいけばおもしろいやり方だと自負している。みなと祭実行委員会が世話をやいてくれて、そんなグループがみんな、一丁のつてくれると年に一度が待ち遠しいんだがナ（ともに寿屋宣伝部勤務）

野のはな対談 ①

すてきなお嬢さん

こんにちわ！

きく人・岡部伊都子

(随筆家)

話す人・山根美恵子

(大丸神戸店顧客課勤務)

野のはな対談というのはね、わたしたちが生きている人生を野とすれば、各人の個性に応じて花を咲かせているわけでしょう。そういう意味で、何処で、どんな人たちが、どのようにしてそのすてきな「花」を咲かせていらっしゃるのだろう——かということはいろんなお嬢さまたちと会ってお話しをしてみたいと思ひまして……。

(岡部)

自分を充実させるために通った定時制高校

岡部 「山根さんは、おいくつぐらいの時に今の職場にお入りになりましたの」

山根 「中学を卒業してすぐですから十六才の時です。だからもうお勤めして大分になります」

岡部 「お勤めなさりながら定時制高校を出られたそうですけど、その四年間にはずい分とご苦労も多かったでしょうね。何に一番、氣を使われましたか？」

山根 「そうですね、その頃事務関係の仕事だったもので、残業などで登校時間の遅れることでした。最終の四時限に行ったこともありましたが、でもわずかな時間でもお友達と話し合えることがとても魅力で、いくら遅くなっても休まず通いましたが、やはり遅刻ということがツラかったわ」

岡部 「そうですね。でも四年間を無事に通学なさることができたということは、よほど職場での理解がな

ければできないことね。その点、貴女の場合はたくさんの方が理解し、協力して下さったわけね」

山根 「ええ、とても感謝しています。試験の時などは早く帰えりなさいって言って下さるんですよ。でもお勤めしている以上は会社のことが第一ですからね、勉強はその次、というふうに心がけてきた積りです」

岡部 「高校を卒業なさることができた時はうれしかったですよね。ところで、よく投書などでね、就職の定時制が優遇されないとか、差別されるとかいったことを読んだりするんだけど、四年間定時制の高校にはいつてらした一人の経験者としてね、どういったことに憤りをおもちになりますか？」

山根 「大会社の一つの協定として夜学生は採用しないということが入ってるそうですが、そのことに憤慨を感じます。生意気いうううう……でもそうした協定も私たち夜学を出た者がしつかりやっていけば、自然みなさまに見直していただけるんじゃないかと、思っています。私がうれしかったのは、何かの折りに賞めていただけた『やはり学校を出たからだろう』っておっしゃって下さった時で、努力しただけのことはあったと喜んでます」

岡部 「それはよかったわね」

山根 「大会社の夜学生はオミットなんていうことには

あまり気にならず、むしろ自分の教養をたかめるために——という考えでやりになったりすれば周囲の方もその努力を認めて下さると思うんですよ」

岡部 「つまり資格をとるためにやるのでなく、ご自分を充実させるためにやるんだ——ということね。それがなければやはり恨み心もよけいに起ってきますしね。

だから、ただ自分の充実のためと思って、一生懸命お仕事に励んで下されば、定時制というもののに対する認識も違ってくるだろうというご意見ね」

山根 「ええ、そうなんです」

岡部 「雇用主側の考え方はもちろん、一般人ももっと認識をあらためないといけないけれどこれは山根さんが一日一日をご自分で歩まれただけにとても貴重なご意見ですね」

お勤めのはなし

岡部 「大丸にはよく行くのですが、いつも頬をあかくして非常にさわやかにお客さまと応待してらっしゃるの



(右より岡部伊都子さんと山根さん)

を感心して拝見してるんですよ」

山根 「わあ、大へんだわ(笑)」

岡部 「顧客課以外のポストの経験は？」

山根 「入社早々はエレベータでした。翌年にエスカレータができてすぐこちらに配属され、そのあと一年ほど事務に入りました」

岡部 「いかが、エレベータやエスカレータを受けもってられた時などは、ずい分と嬉しかったことや、不愉快なお客さんに出会ったことがありでしょ」

山根 「入った次の年だったかしら……、すごくうれしいうことがあったんですよ。たくさん荷物をおもちの方の子供さんの靴ヒモが、ほどこけていたので『結んであげましょうね』って結んであげたのです。そうしたら、そのお母さまがそれがよかったとおっしゃって賛めて下さったんですが、そのことはささいな出来事だったので、とてもうれしくて印象に残ってます。ほんとにチョッとしたこと喜んでいただけたことが、私自身の励みになりましたわ」

岡部 「そうね、ただおこる時だけ卒直に感情を出すのではなく、うれしい時も卒直に感情を出さなくてはいいですね」

山根 「ええ、叱られたこともあるんですよ。新米でまだ融通のきかなかった頃、地下からは乗ってはいけないというので男の方に『ここからはダメです』っていったらその方に『何が乗っていけないのだ。君の名は何んていうのだ。いうて行くから！』ってすごく叱られたんです。もう驚ろきで『すみません！』と平あやまりしましたが……(笑)あの時は悲しくて泣いちゃいました。純情だったのかしら(笑)」

岡部 「いまは受け付にいらして、たくさんの方を見てらっしゃるけど、どうですか？ 紳士もあれば(笑)つきあいたくないような方もいるでしょうが(笑)何か心に残るような方といった印象はございません」

山根 「そうですね、何か感激するようなことでもあれば別だけど(笑)やはり仕事となりますと自分の感情は入れないものですから……。惚れ惚れするような人を見て『いいなあ』なんて思っていたら人数が数えられませ

んもの(笑)」

岡部 「あら、毎日、入店者の数を数えてられるの?」

山根 「ええ、日曜だと七万位、平日で四万ですよ」

岡部 「わあ、すごいですね。それだけの人数を数えていられるとは——」

山根 「はい、ただご案内の応待してるだけでなく、それをやってるんですよ(笑)」

岡部 「じゃ、私も『こんにちわ』っていう度にそうして数えられてるわけね(笑)」

山根 「最初は、クセですか、電車に乗ってて、人の顔を見ると自然手が動いてるんですね(笑)あわててひっこめたりしたことがありますわ(笑)」

岡部 「デパートは小さいお子さんの迷い子が多いでしょうね」

山根 「多いですね。私は子供が好きだから、アヤス方の係りを引き受けるんですよ。やはりワァワァ泣かれるのがツライわ。お母さま方には、お子さまが六才位になれば一応自分の名と住所がいえるくらいのしつけをなさっていただけたらと思いますわ」

岡部 「ほんと、それは大切だね」

点訳・声の録音に張り切る山根さん

岡部 「山根さんは、どうした時が一番ホットなさる」

山根 「会社が終わって、自分のやりたいことに突撃した時でしょうか(笑)」

岡部 「そのやりたいことって何んでしょう(笑)」

山根 「それは、ナイショなんです(笑)」

岡部 「何か他にお仕事なさってるの?」

山根 「ええ、点訳の仕事と声の図書館とって録音の仕事も始めているのです」

岡部 「なかなか根気のいるお仕事だから、大へんでしょう」

山根 「ええ、一日に一頁いくのがやっとですね。私の店で神戸市立盲学校の生徒さんたちが作った粘土細工の展示会を見て、あの人たちの力強さに感激し、何か私でお役に立つことがないかと、日赤を通じ点訳のお仕事

を手伝うことになったんです」

岡部 「それはとてもいいお話ですね。いろんなところでたくさんの方々が点訳奉仕をして下さっています、山根さんも、がんばって下さいね。」

山根さんは、結婚についてはどう考えてらっしゃる」

山根 「いまはそうした仕事をもってるものだから……」

岡部 「でも結婚なすってもやれるお仕事でしょ」

山根 「私って、何んでも夢中になるタチだから、もし結婚してご主人にほっとうして何もできなくなったら困ります(笑)」

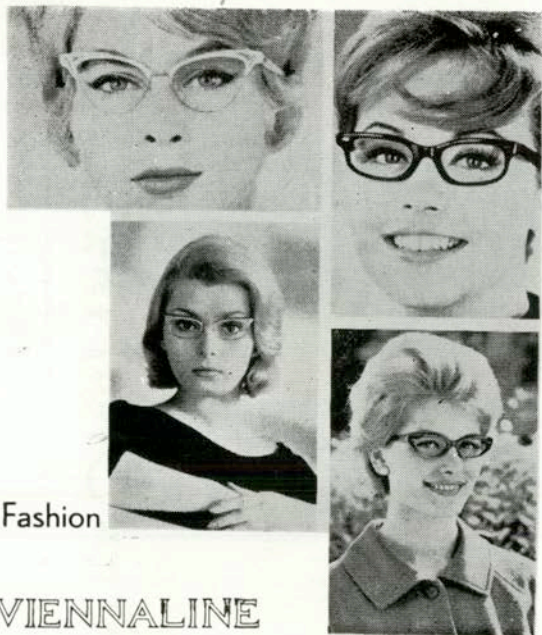
岡部 「そりゃ、当分はお互いにほっとうするでしょうけど(笑)そのほっとうの中から次に何か新しいものを二人でいるのだから力づけあっていけば、一層よい仕事ができるのじゃないかしら?。共稼ぎはなさる?」

山根 「ええ、自分がこの人と想った相手なら、いくら苦勞してもいいと思います。子供が生まれる迄はお勤めを続けたいですね」

岡部 「赤ちゃんができてからも、お勤めができるようなシステムになれば……と思われない?」

山根 「もちろんそうなればうれいすね」

(担当・文責＝五十嵐)



Fashion

VIENNALINE

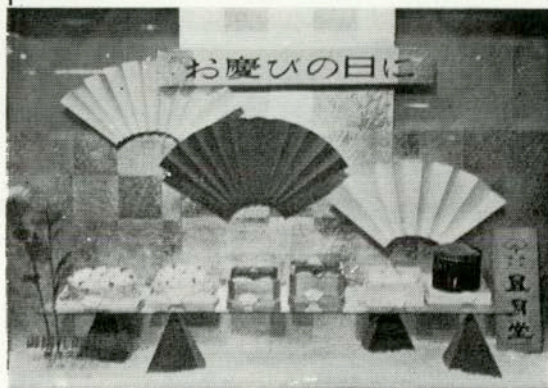
世界のめがねがやって来た

神戸眼鏡院

元町3・電③3112-3・0551(貿易部)

FUGETSUDO

秋の
ご婚礼



ウエディングケーキ
クッキース

紅白饅頭

引菓子

ゴーフル

コウベピアー

プティーゴーフル

創業 明治三十年



風月堂

神戸・元町三 TEL. 神戸 ③ 695・696

里親制度に愛の手を

ゲスト

松 前 敏 彦 (神戸市民生局長)

家庭愛に恵ぐまれぬ

子たちに愛の手を……。

八馬 今年の青年会議所の社会奉仕の方針は、青少年の不良化防止ということを第一にとりあげています。

そのためには具体的にどうすればいいのだろうか——と福祉委員会の佐川君らと研究し、去年は一日里親を行ない、今年は例の四月六日にJICのアジア大会があり、その一環に宝塚観劇があったのですが、これに神戸の施設の子供高生約百二十人を招待したんですが、とても喜ばれました。この時、施設の子供たちは家庭的な愛情に飢えてるんだなと痛感したのですが、そうした施設の子供たちのために私たちJICはどうしたかを具体的に示してあげればいいのか。この

機会に民生局長さんからもぜひサゼッションをいただければ——

佐川 私たち社会奉仕の仕事は、教育青少年というのと、いわゆる社会福祉というこの二つがあるんですが、範囲が広く、どこから手をつけていいのか。分からないような仕事なんです。

今年理事長が非少年不良化防止という方針を大きく打出されてますので、JICとしては、OAA(兵庫県青少年野外活動協議会)とって中小企業に働く青少年の不良化防止という目的で作られたということですがこのOAAを私たちはいま積極的に応援しつつあるんです。その他に一日里親などいろいろ計画しています。

八馬 不良化防止といっても、難かしいお説教をしても始まりませんので、むしろ「楽しみ」を与え

出席者
八馬 琢也

(神戸青年会議所理事長
八馬汽船取締役)

佐川 俊吉

(神戸青年会議所
社会奉仕委員長、創建設計KK)

合田 督

(神戸青年会議所会員
三英物産K・K社長)

ることの方が大切でしょうね。

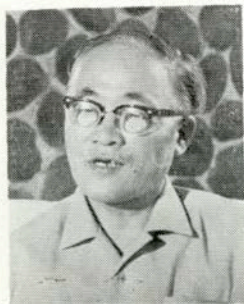
局長 そういう意味では、JICの方たちが時々なさってる施設の子供をレクリエーションに宝塚へ招待したり、慰問されてることは直接、間接的に青少年の非行化防止に大いに役立ってますよ。

合田 そのほか、まだまだ私たちがJICが、積極的にやらねばいけない仕事は？

局長 児童相談所で非行のケースをみてみますと家庭環境のよくない子供に非行化するケースが大へん多いですね。非行化した子供はもちろんですが、同じ環境にあつて、やがては非行化しそうだ——という子供たちを早い目に養護施設に入れてやれば非行少年の数はうんと減るのではと思うんですが私は就任以来、児童福祉について対策を考え、一番先きに強調し

たことは児童相談所の強補です。当時、児童相談所は二十ほどでした。いまはその倍近い数です。

佐川 そうした施設の先生の数は子供の数に対して足りないんじゃないでしょうか。先生一人に対する生徒の数が多く、自然、家庭生活に比べ団体生活では精神的な安定、たのしみが欠けてるんですね。十年前に養護施設の後援会を作り、その後発展して里親を年二回やるようになりましたが、そうしたことをすると子供たちは喜び、とてもなついてくれるのですよ。



(桧前民生局長)

そうしたことから家庭的な安定というものは、団体生活では生み出せないということ——つまりそれが養護施設の欠陥だと思うのです。そうした欠陥をカバーしてあげたいというのが去年から一日里親をやり始めたわけです。

局長 養護施設は、ただ貧乏な子供や両親にめぐまれない子供などを、ただ下宿させ、食べさせ、寝かすところだけじゃない。子供の不良化防止にとっても役立っていると私はいうんですよ。

といいますのは、現在、神戸市内には養護施設に入ってる子供は約千三百人ですがもしそうした子

供が施設に入れられないで放置しておけば、ある期間には非行化する子供が相当でてくるのではないかと思っていますよ。

佐川 まだまだ町中には収容すべき子供たちがたくさんいますね。

合田 養護施設の絶対数は、足りないんじゃないでしょうか。もちろん先生もです。

局長 現在は、足りませんね。

里親家庭をふやそう

局長 しかしね、JCのみなさんが一日里親をやって下さってるのでくにお話したいのですが、もう欧米では、いまや養護施設より里親の時代なんです。

一九五八年に東京で第十回国際社会事業会というのがありました。その前に国際児童研究会があり、その時に米国の児童局長が「アメリカでは、そういう恵まれない子供を施設に入れるという考え方は百年前にアヘッドした。子供はなるべく実家で育てるようにしたい。もしくはそれがダメなら彼ら自身の家庭に変わる家庭、つまり里親になるべき人にあつけるべきだ」といってました。

現にアメリカ当りでは、施設に入ってる子供の倍ぐらいが、里親にあつけられています。

合田 その里親は、ながい間、つまり一生の里親ですか。

局長 ええ、そうです。

去年、ローマで開かれた十一回国際社会事業会に出席した婦人神戸の姉妹都市シアトルに寄って施設をみせてもらいましたが……、あそこはワシントン州なんです。が、同州では里親にあつけられてる子供が圧倒的に多いですね。施設の子供は何分の一かですよ。

ワシントン州の人口は、二百五、六十万と神戸の倍ぐらいですが、それでも児童福祉司が五〇人位でその中で五、六人が里親家庭を探したり、いわゆる開発していくことを専任でやってるんですね。とくに六才未満は絶対、施設に入らず、必ず里親です。

これは人間の人格形成は原則として六才までにされるという考えからなんです。だからその間は施設の集団生活より、父、母という家庭の中で人間形成が求められるべきだという考えなんです。神戸市などは施設の子供は千三百人もいますが、里親は百人もいません。これがアメリカだと仮りに子供千五百人とすれば五百人は施設で、千人は里親という状態です。

だから今後の方向は、もちろん施設がいらないというのではなく、今後は、社会が面倒みていくためには施設より、里親家庭の開拓に力



(八馬氏)

を入れてゆくべきだと思います。この問題については、ご存知でしょうが神戸新聞社が大へん協力してくれています。月曜のグリーン頁にかなりのスペースをいただき「この子供に愛の手を」という表

めるというPRがゆきとどいてないんでしょね。

経済的な負担はかけない里親制度

題で児童相談所の一時保護所として扱って子供の中から里親家庭にあづかってもらうのに適した子供の紹介をさせていただいてます。
合田 その記事をみてあづからうという方は出てきますか。
局長 もうかなり続いています、ほとんどのケースが片づいてます



(合田氏)

ね。こうしたことから、日本で里親制度が伸びないのは、決して市民の中にそういう善意がないのじゃなくてね、むしろそういう気持を持ちながらそのきっかけがない——ということが実情じゃないでしょうか。

だから今後の児童福祉、とくに家庭に恵まれぬ子供の扱い方としては、里親家庭の開拓にうんと力を入れたい——と考えるのです
合田 佐川さん、そういうお手伝いなら私たちJCでも出来るんじゃないでしょうか。

佐川 アメリカでそういう制度が簡単に出来るのは経済的な安定があるからでしょうね。日本ではそれが欠けてるのと、他人のことは放っておいても自分の家庭だけは守りたいという習慣が強いから、もう一つ人のことまでは——という気持があるのでは……。

八馬 国民性の相異ということですね。それと社会的な関係をたか

局長 神戸の里親家庭の場合、決して子なしとは限らないんですよ
佐川 期間はどれ位ですか。
局長 永久的というより、その子の親が自立できるまで暫らく預かるというケースも多いです。

これまでの里親といえは、自分に子供がないので貰う。貰うなら恵くまれない子供を——という自分本位の動きと合わせて社会的善意からが多かったようですね。

これは里親の一例ですが、結婚と同時に五人の子供をあづかった人がいます。その人は自分も戦争孤児である知人に引きとられ、大学まで出してもらった青年ですが結婚すれば「里親家庭」になりましたという願いをもっていたのです。いまでは自分の子供さん一人と計六人の子供さんを育てています。

この人の場合、丁度、神戸市が、三人以上の里親に公費の他に加算してお金をさしあげる制度を作った時の第一号ガイ当者です。

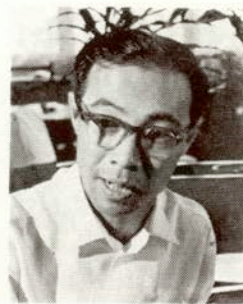
オーストラリアなどでは、一家庭で三人以上、つまり小さな集団里親の場合、里親は各々に月給をもらい家も提供してもらえます。

八馬 神戸市の場合、里親の経済的補助はどうなってますか。

局長 大ざっぱに申しますと、現在の児童福祉法で決められた手当は子供一人につき四千円ですが、神戸市ではさらに子供一人につき千円の支給、三人以上の場合には里親に対する一つの薄謝という意味

で里親手当三六千円を支給しています。

だから子供三人だと、公費一万二千円に市の支給三千円と里親手当六千円、合計二万一千円となり子供一人七千円ということになります。これだとそう窮屈ではないと思います。……少なくとも里親には経済的な負担はおかけしないということになっています。民



(佐川氏)

生局としては、できるだけ多くの子供が里親家庭でお世話していただきたいわけで、そのためにも皆さま方に協力していただければうれしいです。

一同 できるだけ の応援はしたいですね。

(神戸オリエンタル

ホテルにて)



神戸青年会議所
社会奉仕委員会

里親制度にあなたの愛の手を



☆お問合せは神戸市児童相談所内 TEL ④4256